

衆議院議員

大串まさき

<https://m-ogushi.com> 国政報告

- ✔ 党内で政策立案に奔走中
- ✔ 補正予算が成立：岸田政権の成果
- ✔ 無派閥議員として党改革を推進します

ゲンロック VOL. 38



大串まさき プロフィール

前 デジタル副大臣 兼 内閣府副大臣
元 経済産業大臣政務官 元 自民党副幹事長

- ▶ 昭和 41 年生まれ。報徳学園高卒。東北大学大学院修了。IHI、松下政経塾を経てJAISTにて博士（知識科学）を取得。大学准教授の後に現職（4期）。
- ▶ 社会保障・産業政策・デジタル改革等の分野に注力。
- ▶ 家族は妻と2人暮らし+保護猫1匹（三毛猫）。趣味は釣り・絵画・多肉植物など。スポーツは高校まで剣道一筋。好きな食べ物はカレーとラーメン。座右の銘は「威ありて猛からず」。

お問い合わせ先

自民党への入党のご希望、国政報告会への参加希望など、お問い合わせは下記までお願い致します。

〒664 兵庫県伊丹市中央 1-2-6
-0851 グランドハイツコーワ 2-12
TEL:072-773-7601
FAX:072-773-7602

✉ info@m-ogushi.com



大串まさき 国政報告

自由民主党 兵庫県第六選挙区支部ニューズレター
ゲンロック 第38号（令和5年12月25日号）

頒布責任者：浅井勝弘 伊丹市中央 1-2-6 グランドハイツコーワ 2-12
印刷者：株式会社プリントパック 京都府向日市森本町野田 3-1

討議資料

党内で政策立案に奔走中

デジタル副大臣の任期を終えて、今期からは党内で政策立案の仕事を担当しています。主に様々な会議（党内では部会などと呼ばれます）において部会長や事務局長を任されています。政府の説明を求めつつ、現状の課題に対する議員からの意見を取りまとめたり、関係団体からの意見を聴き取り政策に反映させたり、党内での法案審議をおこなうのも部会の役目です。

そして、このたび拝命した**厚生労働部会長**は与党の政策決定のうち社会保障分野の政策についての取りまとめ責任者となります。先日は診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等報酬の改定の内容が固まりましたが、その前提となる党内での議論を経て来年度予算編成大綱に向けた提言の取りまとめもおこないました。

デジタル社会推進本部では事務局長として前デジタル副大臣の経験を生かした政策議論をおこなっています。web3やAIなど最新の技術動向に対応した政策を作り、同時に規制改革や税制改正を進めながらデジタル化を後押しする役割を担っています。

他にも**医療情報政策・ゲノム医療推進特命委員会**や**リハビリテーションに関する小委員会**、中小企業のデジタル化を推進するPT（プロジェクトチーム）、女性の生涯の健康に関するPTなどの事務局長も拝命しています。資料を読み込む時間の確保や各会議の日程調整など難しい面もありますが、様々な政策分野で成果を出せるように頑張っています。

国際局では次長として各国大使との友好を深めています。政府だけでなく党としての議員外交も重要です。早速ですが、滞っていた連携協定について、道筋をつけるように動いています。きめ細かい対応が出来ることも自民党の特徴です。

議員連盟（議連）でも活動を進めています。**休眠預金活用推進議員連盟**では、その活用状況について視察をおこない現場の声を聴いて、次の法改正時に反映させていきます。

また**学校耐震化施設整備等促進議員連盟**では要望活動の結果、先の補正予算では学校施設等の整備に2,333億円の予算を確保しました。この予算を活用して、自治体の協力を得ながら小学校のトイレの改修や、体育館の空調設備の導入を進めます。



部会等で会議を進行、意見の取りまとめ



国際局で各国大使との交流



休眠預金活用議連による現地視察

補正予算が成立：岸田政権の成果

11月末に令和5年度の補正予算が成立しました。一般会計の総額で13兆1,992億円となります。

デフレ完全脱却のための総合経済対策として、

- ① 物価高対策
- ② 持続的賃上げ・所得向上と地方の成長
- ③ 国内投資の促進
- ④ 人口減少を乗り越える社会変革の起動・推進
- ⑤ 国民の安全・安心の確保

が5つの柱となります。

物価高対策としては住民税非課税世帯に対する給付金や**電気・ガス・燃料油価格激変緩和措置の延長**等を盛り込みました。持続的な賃上げに向けた取り組みとしては、中小企業が省力化等を進めるための投資を支援する**中小企業省力化投資補助制度**の創設や**介護職員等の処遇改善**のための経費を計上しました。

具体的な岸田政権の成果として2023年10月からスタートした**「年収の壁・支援強化パッケージ」**があります。これまで会社員の配偶者などで、パートやアルバイトをされている方は年収が106万円を超えると厚生年金・健康保険への加入が必要（従業員101人以上の企業）となり収入減となっていました。また従業員100人以下の企業でも年収が130万円を超えると国民年金・国民健康保険への加入が必要になり、こちらも収入減となっていました。将来的な補償が手厚くなるとはいえ、一時的な減収は結果的に労働を抑制してしまうため、以下の対策を打ち出しました。106万円の壁に対しては、一人あたり**最大50万円の支援**をおこないます。



無派閥議員として党改革を推進します

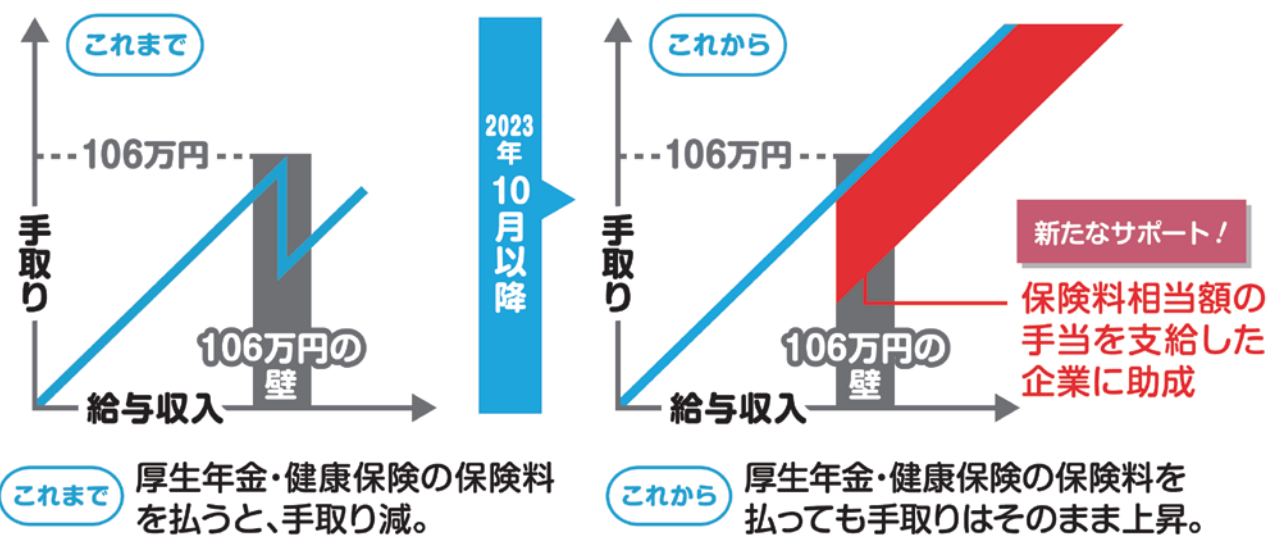
今般の政治資金を巡る報道では、皆さまにご心配を頂いております。収支報告書に記載が必要な収入（派閥側では支出）を意図的に記載しないことは政治資金規正法違反であることは明白です。すみやかに全容を明らかにして、しっかりと対処することが必要です。

私は初当選以来、派閥に属さない、いわゆる「無派閥」の議員として活動して参りました。地元でも、多くの方から「派閥に入った方が良いのでは」とも言われてきましたが、個人的な議員同士のつながりもでき、国会や党内での議員としての活動も問題なく行えています（むしろ派閥を超えて自由に協力してもらえます）ので、今後も無派閥議員として活動して参ります。

なお、私の政治資金に関しては、法律に則って適切に処理した上で、全て公開されておりますことを申し添えておきます。したがって今回の報道にあるような派閥を巡る政治資金の未記載問題とは無縁ではありますが、同じ自民党の議員として党改革を進めなければならないと考えています。政治資金規正法を見直す議論も必要ですが、運用上の問題を明らかにした上で、デジタル技術を活用した収支や使途の透明性を高めることも考えるべきです。

また派閥の在り方についても、無派閥の議員だからこそ意見をしたいと考えています。派閥単位で割り当てられる人事では無く、真の政策力で競い合える客観的な評価制度の導入や、お金のかからない政治活動の在り方も考えていくべきです。自民党がより力のある政策集団として生まれ変わるべく改革が必要です。

自民党の中には、優秀で真面目に活動している若い議員もたくさんいます。まさに世代交代の時期でもあり、私のような無派閥の中堅議員が声を上げることが重要だと考え、しっかりと党改革を推進して参ります。



また130万円の壁に対しては、**一時的に130万円を超えても被扶養者認定を可能として対応**しました。これにより所得の向上と労働力不足の両面に対応することができます。

編集後記

遅れてではありますが、希望が叶って厚生労働部会長を拝命しました。社会保障関連の政策決定の責任者となりますので、かなりの頻度で行政の担当者や打合せを行いながら議論を進めています。想像以上に忙しいポストです。

また、先輩議員から様々な部会の事務局長への就任を頼まれる場面も多く、ありがたいことです。頼まれるうちが華とも言われるので、できる限りのことはやってみたいと思います。ここでの経験の積み方が将来に繋がると信じて精一杯頑張ります。